

ジャパンウィーク2007年ポーランド・ワルシャワ

# JAPAN WEEK

第32回

2007 10|26(金)—10|31(水)

 [開催地] ポーランド ワルシャワ市



The 32nd Japan Week Poland · Warsaw 2007

Host City Poland Warsaw

Period of the Event Oct.26 (Fri) ~Oct.31 (Wed), 2007,6days

ワルシャワは幾度となく戦乱や火災により、破壊と再生を繰り返してきた。1944年ナチス・ドイツによってそのほとんどを破壊されたが、市民の驚異的な努力により市街は傷の一つ一つに至るまで徹底的に復元された。

今回そのポーランドの首都ワルシャワ市において2007年10月26日から10月31日までの6日間にわたり「第32回ジャパンウィーク2007年ポーランド・ワルシャワ」が開催された。

さまざまな文化活動を通して日本の素顔を紹介する市民レベルでの国際文化交流を行うこの事業に、日本全国より40団体・1,200人におよぶ方々が熱き思いを胸に、ワルシャワを訪れ、またポーランド側からも各イベントに多岐にわたり10団体160人のご参加をいただいた。現地参加型の「双方向の交流」(日本側の参加者だけでなく、ポーランド側からも参加いただき「交流」する)を大きなテーマとして、両国民同士のきずなを深めた。

オープニングフェスティバル、野外イベント、舞台公演、展示・実演、武道演武会、交流プログラム、など6日間にわたり行われた各イベントプログラムはワルシャワ市民はじめポーランド国民が多数来場し、昨年のスペイン・サラマンカでのジャパンウィークに引き続き、大盛況であった。

ジャパンウィーク6日間の感動・かけがえのない体験・草の根交流の様子をこの記念アルバムにて堪能していただきたい。

## 参加団体一覧

都道府県	団体名
北海道	絵手紙教室いち語いち絵の会／絵手紙
栃木県	津軽三味線貫清世会／津軽三味線
埼玉県	Kawagoe Chorus League／合唱、和紙ちぎり絵 初美会／和紙ちぎり絵
千葉県	千葉県年金受給者協会 和の会／玉すだれ
東京都	あうん／魚拓、コレクターが賞を選ぶ絵画展／絵画、墨のF1イラスト展／イラスト 全日本婚礼美容家協会／婚礼美容 社団法人 全日本ピアノ指導者協会／ピアノ 大正琴絃容会／大正琴、財団法人日本武道館 日本ポーランド友好協会合唱団「虹の会」／合唱・ピアノ 社団法人日本和紙絵画芸術協会／和紙絵画 株式会社 マングネットワーク／マンガ、早稲田大学書道会／書道 早稲田ちんどん研究会／ちんどん
神奈川県	コールよこすか／合唱
長野県	都山流尺八八幸会／尺八・琴
静岡県	伊豆新世紀創造祭記念合唱団／合唱 ジュニアオーケストラ浜松OBOG会／器楽演奏 歌枕直美・和歌劇「富智の山」／和歌劇
愛知県	太鼓衆 翔鼓／和太鼓
京都府	グループ「SUN」／琴、立命館大学多国籍音楽サークル出前ちんどん／ちんどん
大阪府	ピアニスト瀬田敦子(日本ポーランド協会関西センター)／ピアノ演奏 音楽の森へ行きましょう(日本ポーランド協会関西センター)／ピアノ・ピオラ 日本折紙協会大阪支部／折り紙 西日本友好親善訪問団／視察・交流
兵庫県	チーム鬼灯／よさこい
奈良県	アウガルテン大正琴／大正琴、奈良社会福祉院佐保山太鼓隊／和太鼓
和歌山県	スタジオぼこ・あ・ぼこ／タップダンス
鳥根県	さだ須佐太鼓団／和太鼓
福岡県	ラブ・ムジカ／ピアノ、日本伝統工芸「能面」麻生能忍展／能面 日本伝統工芸「押絵」松岡玲子展／押絵、表千家同門会／茶道 皇風煎茶禮式 大野城光緑会／茶道
沖縄県	女声合唱団「星砂」／合唱

合計40団体

## CONTENTS 目次

会長挨拶／実行役員名簿	1
開催概要	2
事業の実施概要	2~3
開催地と会場紹介	4
オープニングフェスティバル	5
野外フェスティバル	5
オープニングレセプション	6
劇場公演	7~11
音楽フェスティバル	12~14
リボンカッティングセレモニー	15
展示・実演	16~19
表敬訪問／野外宣伝	20
学校訪問	21~23
武道演武会	24~25
音楽交流プログラム	26
西日本友好親善訪問団	27
JAPANWEEKの風景	28~29
現地新聞記事一覧	30~31



## 会長挨拶

### 愛知和男

第32回ジャパンウィーク2007年ポーランドワルシャワ 日本側実行委員長

衆議院議員 財団法人国際親善協会 会長

今回で第32回目を迎えましたジャパンウィークが、日・ポ市民交流年の事業としてポーランドのワルシャワ市において開催され、日本側参加団体および現地関係者の皆様のご協力のもと無事終了できましたことを心より感謝申し上げます。

舞台公演、展示・実演、日本武道代表団による武道演武会、そしてワルシャワ市内学校への訪問交流や各種交流プログラムにおいて両国の友好親善の輪を幅広く展開することができました。さらにワルシャワ市民の方々の心温まる観覧・見学・交流にのぞむ姿にも深く感銘を受けた次第です。

このジャパンウィーク開催を機に益々日本・ポーランド両国の絆と友情が深まり、末永い様々な交流が続けられることを願ってやみません。今回のジャパンウィークに遠路ポーランドまでお出かけいただきました日本側参加団体の皆様方の民間大使としての熱き思いとそのご活躍、そして現地側関係者の皆様のご支援なくしてジャパンウィークは成り立ちませんでした。改めて敬意を込めて、深く御礼申し上げます。

最後に、多大なるご支援・ご協力をいただいたポーランド側および日本側関係者の皆様方そして連日連夜にわたりジャパンウィークの運営に携わっていただいたボランティアの皆様方に深く感謝申し上げますとともに、今後とも皆様のご支援・ご指導によりジャパンウィークを進化・向上して開催国との友好と国際親善の輪を広げ、世界の恒久平和の輪を築くことを祈念して終了の挨拶とさせていただきます。

## 実行委員会名簿

### ■日本側

実行委員長	愛知 和男	衆議院議員 財団法人国際親善協会会長
名誉顧問	田邊 隆一	在ポーランド日本国大使館特命全権大使
顧問	河野 弘	ポーランド日本商工会会長
顧問	金子 隆一	ポーランド日本人会会長
理事	香山 充弘	財団法人自治体国際化協会理事長 財団法人国際親善協会評議員
理事	今村 忠雄	社団法人日本海外協会会長 財団法人国際親善協会評議員
理事	山崎 正夫	西日本旅客鉄道株式会社代表取締役社長
理事	南谷昌二郎	西日本旅客鉄道株式会社顧問
理事	岡本 睦治	日本興亜損害保険株式会社相談役 財団法人国際親善協会理事
理事	大西 誠	株式会社日本航空インターナショナル執行役員東京支店長 財団法人国際親善協会理事
理事	見並 陽一	東日本旅客鉄道株式会社常務取締役
理事	金井 耿	株式会社日本旅行代表取締役社長 財団法人国際親善協会理事
事務局長	古田 親吾	財団法人国際親善協会常務理事

### ■ポーランド側

実行委員長	Hanna Gronkiewicz-Waltz	ワルシャワ市長
理事	Ferdynand Ruszczyc	ワルシャワ国立博物館館長
理事	Ewa Malinowska-Grupinska	ワルシャワ市議会議長
理事	Ewa Tatiana Palasz-Rutkowska	ワルシャワ大学日本・韓国語科科长

## 開催概要

開催都市／ポーランド共和国ワルシャワ市

開催期間／2007年10月26日（金）～31日（水）6日間

開催規模／日本側参加者 1,200人

現地側参加／見学者 32,000人

日本側主催／財団法人 国際親善協会

開催国側主催／ワルシャワ市

開催後援および特別サポート／ポーランド共和国マゾフシェ県

後援／在ポーランド日本国大使館、経済産業省、国土交通省、文部科学省、在日ポーランド大使館、ポーランド政府観光局  
 独立行政法人国際観光振興機構、独立行政法人国際交流基金、日本貿易振興機構（ジェトロ）、財団法人自治体国際化協会  
 財団法人地域伝統芸能活用センター、社団法人日本海外協会、ビジット・ジャパン・キャンペーン実施本部

助成／独立行政法人国際交流基金、財団法人日商岩井国際交流財団

協賛／日本航空、日本興亜損害保険株式会社、株式会社みずほコーポレート銀行、西日本旅客鉄道株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、株式会社日本旅行、ポーランド日本商工会、ポーランド日本人会

目的／「ジャパンウィーク」は、日本の生活文化、芸能、美術、音楽、ファッション、スポーツ、経済等を通じて日本を紹介するとともに、開催地住民も参加し、市民レベルの文化交流により、相互理解・友好親善を図る。

この「ジャパンウィーク」は、各会場での公演、展示、実演などによって構成されているが、一方通行の文化紹介にとどまることのないよう、開催地の人々の参加を促し、心と心がふれあう交流を実現できるワークショップ等のプログラムづくりにも力を入れている点にその特徴がある。

## 事業の実施概要

### 1. ジャパンウィーク運営組織について

当事業は日本・ポーランド両国に各々実行委員会を組織し、日本側は愛知和男／財団法人国際親善協会会長が実行委員長を務め、ポーランド側はハンナ・グロンキヴィッチ・ワルツ ワルシャワ市長を実行委員長とし、両国事務局互いの協力のもと、開催会場・施設の決定や告知PR活動・イベントの取り纏めなどを推し進めた。特に開催会場・諸施設については各実施予定プログラムの主旨をワルシャワ市に配慮していただき、主なイベントをひとつの会場（文化科学宮殿）に集約して開催会場を準備して頂いた。

日本より都合8回に亘る現地打合せ、電話および電子メールでの情報交換・諸々の交渉を行い相互の協力体制を着々と築き上げ成功へのステップを確かなものにして行った。

特に現地にてジャパンウィーク開催直前の10月18日にはポーランド側実行委員会による記者会見を設定していただき、日本側からも参加し、これを契機に一気にジャパンウィーク開催の機運を高めていただいた。

日本側では2006年の夏より全国に招致活動・告知活動を開始

し、並行して関係資料の作成・説明会の実施などを行い、参加団体応募の後は各団体と参加プログラム、荷物の輸送の打合せ、各公式行事やイベントプログラムのアレンジなど数多くの業務をこなしてきた。

### 2. 広報・告知について

現地側広報・告知に関しては、ワルシャワ市、マゾフシェ県、在ポーランド日本国大使館そしてポーランド日本人会の皆様そしてコーディネーター金子氏にご協力いただいたおかげでジャパンウィーク史上記録に残る観客動員数を記録することができた。下記が関係各機関にご協力いただいた広報・告知活動である。

#### (1) メディアでのプロモーション

新聞・ラジオ・TV・ショッピングモールを中心としたPR展開に加え、今回新たに独自のウェブサイトの立ち上げていただいた。

#### ① 独自のウェブサイトの立ち上げ

コーディネーター金子氏のご協力により、独自のウェブサイトをインターネット上で立ち上げ、ジャパンウィークの各イベントをPRするとともに、劇場、音楽交流フェスティバル会場、武道演武会場



についての来場希望者のオンライン予約を実施した。(このシステムにより事前の基礎となる来場者数の把握ができた。)

#### ②新聞

11月18日の記者会見後よりジャパンウィーク終了までに6社計15回、ジャパンウィークについての掲載をしていただいた。

#### ③ラジオ

10月21日の国政選挙後、20秒スポットをラジオ局ヴァヴァにて、10月28日まで50回オン・エアした。

#### ④TV

国営放送 TVP2およびTVP3にて10月25日より10月30日まで1日につき2回程度のニュースでジャパンウィークを紹介いただいた。

#### ⑤ショッピングモールでのスポット放送

中央駅、文化科学宮殿に隣接したショッピングモール「ズオティ・タラス」内で10月23日から30日まで計80回のスポットを放送。

#### (2)PRツール作成

- ①ポスター(大)(100cm×70cm)500枚
- ②ポスター(中)(60cm×42cm)3,000枚
- ③チラシ(14,8cm×21cm)25,000枚 市内を走るトラムに配置
- ④イベントプログラム(リーフレット) 30,000部
- ⑤バナー(12m×2,5m)1個 文化科学宮殿正面の壁に設置
- ⑥広告版(2m×2m)2個 文化科学宮殿正面入り口に設置

#### (3)記者会見からジャパンウィーク期間中までの取材

TV局のTVP3より3回の取材があり、期間中にオンエアされた。

### 3. オープニングフェスティバル・公演、展示・実演、交流プログラム、武道演武会について

ジャパンウィークの大きなテーマは「双方向の交流」である。日本側のみの参加だけでなく野外イベント、舞台公演、展示・実演についてポーランド側からの団体にも参加していただき、出演者、展示者間の交流が深まるようイベント作りをした。

イベントは10月26日(金)の午後に文化科学宮殿前の広場にてオープニングフェスティバルが開催されジャパンウィークの幕があけた。その後、文化科学宮殿内でのオープニングレセプション、同宮殿内劇場での舞台公演と続いた。舞台公演は翌27日(土)、29日(月)と続いた。

また、今回はショパンの生誕地ワルシャワゆえにショパン国際ピアノコンクールの会場であるフィルハーモニアコンサートホールにて今回の特別企画「音楽交流フェスティバル」を28日(日)および29日に開催した。

展示・実演は文化科学宮殿内会場にて27日(土)のリボンカッテ

ィングに始まり30日(月)まで行った。

トルヴァル中央センターでは30日(月)に武道演武会、交流稽古会、ワークショップを実施した。

交流プログラムの学校訪問については11団体が参加し、音楽交流プログラムは1団体、民俗舞踏交流プログラムは1団体参加し、各団体ともに肌と肌をふれあう心のこもった草の根交流に大感激していた。

毎年参加いただいている西日本親善訪問団は、ワルシャワ大学を友好訪問し、大いに親善交流の輪を広げていただいた。

### 4. 在ポーランド日本国大使館およびポーランド日本人会のご協力とボランティアの活躍

特に今回のジャパンウィークが大盛況に終えることができたのは一重に在ポーランド日本国大使館の田邊大使をはじめ大使館の皆様のご協力による賜物である。

また、ポーランド日本人会の皆様には協賛、ジャパンウィークのプログラムへの参加、およびボランティアとしての参加、そして告知活動をしていただきご協力いただいた。

ポーランド日本人会傘下のワルシャワ日本人学校生徒の皆様にはジャパンウィーク初日のオープニングフェスティバルにご参加いただいた。また、日本人留学生の皆様には29日の音楽交流フェスティバルにご参加いただいた。

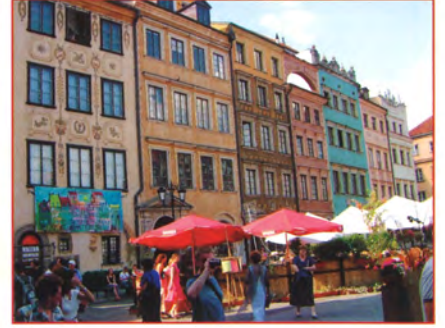
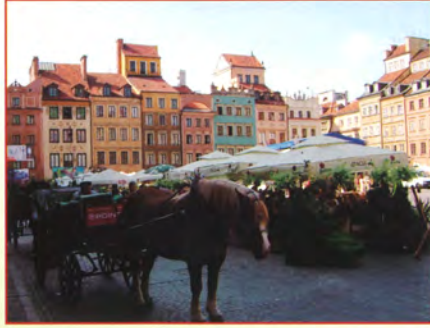
今回も数多くのボランティアの方々に協力して頂いた。ボランティアについては、ワルシャワ在住のポーランド人学生、日本人留学生、在留邦人など幅広い方々にご協力いただいた。ジャパンウィーク・スタッフの一員として朝早くから夜遅くまで本当に頑張っていたいただいた。ボランティアの方々の協力無くして、ジャパンウィークの成功はありえなかったと言っても過言ではない。



## 開催地と会場紹介



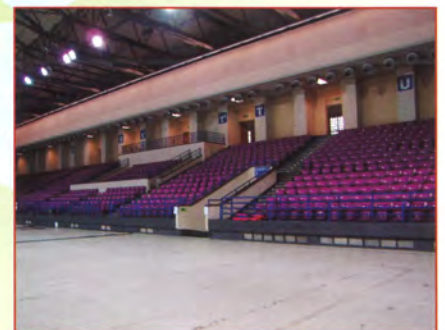
① 旧歴史市街地区



② フィルハーモニーコンサートホール



③ 文化科学宮殿



④ トルヴァル中央スポーツセンター



## オープニング・フェスティバル

[日時] 10月26日 (金) 15:00~17:00

[場所] 文化科学宮殿前広場 特設ステージ

### 日本側

田邊隆一在ポーランド日本国大使館特命全権大使

野寄亮一ポーランド日本商工会副会長

金子隆一ポーランド日本人会会長

岡本陸治理事

大西誠理事

金井耿理事

古田親吾財団常務理事

### ポーランド側

ハンナ・グロンキヴィッチ・ワルツワルシャワ市長

カナジーナ・ラタイチックワルシャワ市プロモーション課長

天気が心配だったが、曇り状態のまま大きな変化はなかった。

日本、ポーランド双方のスピーチの後、日本側の参加団体とともに「ポーランド日本人会のワルシャワ日本人学校」および「ブウォツク少年少女舞踊合唱団」、「Klick&Drum」がポーランド側より参加いただき、太鼓演奏、よさこい 合唱および民俗舞踊にてジャパンウィークの初日最初のイベントをスタートした。文化科学宮殿前の特設ステージ前は多数の観客で埋まり、イベントは好評を博し大変盛り上がった。

長い準備期間の後、ジャパンウィーク最初のイベントがスタートしたことを考えると感慨ひとしおであった。



## 野外フェスティバル

[日時] 10月27日 (土) 11:00~13:00

[場所] 文化科学宮殿前広場 特設ステージ

当日朝まで雨が残っていたがリハーサル時には天気も回復し安心した。前日のオープニングフェスティバルよりもさらに多くの観客で埋まり、日本側からはちんどん、和太鼓、タップダンス、そしてよさこい、ポーランド側からはプラスバンドのパフォーマンス及び演奏を観客に披露し、イベントは大変盛り上がった。

後述のリボンカッティングにご臨席いただいた後、田邊大使をはじめとする実行委員会の皆様も広場にて2日目の野外イベントをお楽しみいただいた。



## オープニングレセプション

【日時】 10月26日（金） 17：30～19：00

【場所】 文化科学宮殿内レセプション会場

### 日本側

田邊隆一在ポーランド日本国大使館特命全権大使

野寄亮一ポーランド日本商工会

副会長、金子隆一ポーランド日本人会会長、岡本陸治理事、大西誠理事

金井耿理事、古田親吾財団常務理事

### ポーランド側

ハンナ・グロンキヴィッチ・ワルツ ワルシャワ市長

イエジ・ボミアスキー ポーランド外務省開発協力局長

ラファウ・ジェシバ マゾフシエ県知事室副室長

クシトフ・ハウピンスキ マゾフシエ県文化・観光促進局副局長

ヴァワデマル・ロシキエヴィッチ マゾフシエ県副知事

ほぼ時間通りに始まり、レセプションの華やいだ雰囲気と日本・ポーランド双方のスピーチが出席者の気持ちを高揚させてくれた。ワルシャワ市長からの参加証書授与の後、参加者は地元の「民俗舞踊団（プロムニ民俗舞踊団）」の踊りの心地よいリズムによって、用意いただいた飲み物や豪華なパーティー料理に舌鼓を打ち、レセプションを楽しんでいる様子が感じられた。





## 劇場公演

ウェブ上での事前の予約システムでの来場予定数が一定予定数を超え、また会場には予約をしていない来場者が公演ホール前に連日溢れて、文化科学宮殿内ホールは3日間大入り満員となった。また、各参加団体の演技終了後の感動と感激に満ちた表情を間近に感じ、このイベントの成功を劇場公演で確信した。

又観客の反応は穏やかな国民性から想像できなかったスタンディングオベーション、大喝采の拍手の中、公演は大成功のうちに幕を下ろした。

### 劇場公演 1

[日時] 10月26日 (金)

[場所] 文化科学宮殿内ホール

劇場公演初日は「絃容会」のみなさんによる大正琴の演奏で幕を開けた。初めて聞く大正琴の音色に耳を傾けていた観衆は、東京音頭の掛け合いで一つになった。地元学生グループ「FLEX」によるリズムミカルなダンス披露の後、「全日本婚礼美容家協会」の皆さんによる日本の伝統的な婚礼着物ショーは、映像を交えた四季折々の美しいシーンに観衆の拍手は鳴りやまなかった。休憩の後、「津軽三味線貢清世会」による力強い津軽三味線の音色と繊細な琴とのセッションによる和の競演でスタートした。舞台はがらりと変わり客席から登場の「早稲田ちんどん研究会」は日本の伝統芸の技と演技で観衆の笑いを誘った。最後は、「奈良社会福祉院 佐保山太鼓隊」による日本の伝統的な和太鼓と幻想的なシンセサイザーの演奏。女性だけの演奏とは思えないその迫力あるパチさばきに、会場からは、惜しめない拍手が送られ初日の幕は閉じた。



奈良社会福祉院佐保山太鼓隊



全日本婚礼美容家協会



大正琴絃溶会



津軽三味線



早稲田ちんどん



## 劇場公演 2

【日時】 10月27日（土）

【場所】 文化科学宮殿内ホール

2日目の劇場公演は、舞台全面に飾られた「さだ須佐太鼓団」の和太鼓のセットの中で開場した。当然観衆は公演前から期待を膨らませ、演奏が始まるとその迫力あるバチさばきに酔いしれた。舞台転換が済み、「チーム鬼灯」によるよさこいソーラン。一糸乱れぬその踊りに観客の惜しめない拍手は続いた。地元ワルシャワのグループ「ZAMIAST」による躍動感あふれるダンスと休憩を挟み、舞台は「グループ“SUN”」の皆さんによる琴、三味線、尺八の美しい音色の合奏で始まった。次に「立命館大学多国籍音楽サークル出前ちんどん」の皆さんによるポーランド語を交えたコミカルな演奏に会場は笑いの渦と化した。最後は歌枕直美さんによる和歌劇「富智の山」の独唱である。日本の歴史物語に会場からは惜しめない拍手が続いた。



チーム鬼灯



さだ須佐太鼓団



グループ "SUN"





立命館大学多国籍音楽サークル出前ちんどん



歌枕直美・和歌劇「富智の山」



#### ポーランド側参加団体の活躍 1

地元のダンスグループなどが双方向の交流を目的として参加。躍動感溢れるダンスなどで会場を沸かせていた。

## 劇場公演 3

【日時】 10月29日 (月)

【場所】 文化科学宮殿内ホール

劇場公演最終日は、「アウガルテン大正琴」の軽快な日本の現代曲の演奏で始まった。ポーランド民謡の演奏ではイントロから観衆の手拍子で盛り上がり、続く「スタジオ ぼこ・あ・ぼこ」はリズムカルなタップダンスを披露した。地元・ダンスグループ「TEST」のしゃれていて、とても小粋なパフォーマンスの後休憩をはさみ、「千葉県年金受給者協会 和の会」は伝統的な玉すだれを全員で披露し会場を大いに沸かせた。劇場公演最後、「太鼓衆翔鼓」の和太鼓の演奏への惜しめない拍手で三日間の幕を閉じた。



スタジオぼこ・あ・ぼこ



アウガルテン大正琴



千葉県年金受給者協会 和の会





太鼓衆 翔鼓



## ポーランド側参加団体の活躍 2

地元のダンスグループなどが双方向の交流を目的として参加。それらの小粋でしゃれたダンスに会場は大いに盛り上がっていた。



## 音楽フェスティバル

### 合唱フェスティバル

【日時】 10月28日（日） 17：00～22：30

【場所】 フィルハーモニア大ホール

今回のジャパンウィークの目玉としての公演。満席の観客にめぐまれた。

第1部は「ジュニアオーケストラ浜松OBOG会」のオープニング演奏、ベートーヴェンのエグモント序曲で開演。続いて、地元少年合唱団のすばらしいコーラス披露で、第1部「合唱フェスティバル」がスタート。日本からの5団体が、それぞれの持ち味を披露し最後の全員参加のフィナーレは、「故郷」を大合唱。観客全員のスタンディング・オベーションにはほんとうに感激した。

第2部は、「八幸会」の演奏でスタート。観客席から虚無僧が尺八を演奏しながらの登場、琴と尺八の演奏を堪能させる。

その後のピアニスト「瀬田敦子氏」の迫力あるピアノ演奏には観客のスタンディング・オベーションがあった。その後の日本ポーランド友好協会合唱団「虹の会」の同じくピアノ演奏に続き、最後は、「さだ須佐太鼓団」の高校生45名による太鼓演奏。1曲の披露だったが、最後にふさわしい締めくくりで、またもや観客総立ちのスタンディング・オベーション。

5時間に及ぶ公演が、感動とともに終了することができた。



ジュニアオーケストラ浜松OBOG会



シヨバン音楽院附属ワルシャワ少年合唱団



コールよこすか



日本ポーランド友好協会合唱団「虹の会」





川越コーラスリーグ



女声合唱団「星砂」



伊豆新世紀創造祭記念合唱団



都山流尺八幸会



ピアニスト瀬田敦子



さだ須佐太鼓団



## ピアノフェスティバル

【日時】 10月29日（月） 19：00～22：50

【場所】 フィルハーモニア小ホール

前の日の合唱フェスティバル同様、開演前には入場を希望する市民の長い列がフィルハーモニア小ホールの前にできた。開演後、観客の皆様はじっと耳を傾けて各演奏者のパフォーマンスを堪能して楽しんでいただいている様子を感じられた。



ラブ・ムジカ



音楽の森へ行きましょう（日本ポーランド関西センター）



日本人留学生



全日本ピアノ指導者協会





## リボンカッティングセレモニー

【日時】 10月27日 (土) 10:00~10:30

【場所】 文化科学宮殿内展示会場

### 日本側

田邊隆一在ポーランド日本国大使館特命全権大使

金子隆一ポーランド日本人会長

岡本陸治理事

大西誠理事

金井耿理事

古田親吾財団常務理事

### ポーランド側

カナジーナ・ラタイチックワルシャワ市プロモーション課長、現地側出展者代表 「アートベム」

当初予定していたポーランド側の代表者が急な政務で列席することができなくなり、その確認のためにセレモニーの開始が若干遅れた。日本からの出展者、ワルシャワ市からの出展者及び来場者が見守る中、セレモニーは開始された。

日本・ワルシャワ両国の（実行委員会）式典ご臨席者紹介の後、岡本陸治日本側理事が開場のご挨拶をされた。

双方向の交流を促進する目的で、現地側の展示も併設され、日本からの参加団体と現地からの参加団体が紹介された。最後に、両国の（実行委員会）代表者4名によるリボンカッティングにより式典は滞りなく終了した。その後、日本・ワルシャワ両国の実行委員会による展示ブースの巡回が行われ、出展参加者に声を掛けられると共に、出展物一つ一つを丹念に見学されていた。

## 展示・実演

〔日時〕 10月27日（土）～30日（日）

〔場所〕 文化科学宮殿 4階 展示会場

双方向の交流を促進する目的で、昨年同様に、陶芸作品紹介(Art Bem)、「ポーランド折紙紙協会」の現地側展示も併設された。また、現地で活動されている、日本貿易振興機構（ジェトロ）や日本料理店にも出展していただいた。

ワルシャワの方々は、日本からの出展に大変興味をもたれ、作品ひとつひとつをじっくり鑑賞したり、書道、彫刻、折紙、工芸などの実演を熱心見入っていたり、参加したりしていただき、展示会場は連日大変盛況であった。

週明けには、学校単位で小中学校の生徒達にも大勢来場していただき、折り紙、書道等の実演に追われる場面もあった。急遽応援に駆けつけてくれた早稲田ちんどん研究会のパフォーマンスに子供たちは大喜びだった。

来場された方々の中には、作品を観るだけでなく、携帯電話を作品にかざして、じっくり写真を撮って（写メール）いたのが印象に残り、時代の移り変わりを感じた。



### 表千家同門会

リボンカッティングセレモニー後、田邊大使に特設のお茶会場をご覧いただき、ご挨拶もしていただいた。来場していただいた方々には、特設のお茶会場ステージ前の椅子に着席してお手前を見ていただき、約40名程度の方々に順番でお抹茶を味わっていただくと共に、日本の茶道を体験していただいた。

### 皇凰煎茶禮式 大野城光緑会

特設のお茶会場ステージ前に、テーブルを設置して、来場していただいた方々に着席して、テーブルを利用した形で煎茶のお手前を披露すると共に、煎茶を通じたおもてなしの心を体感していただいた。



### 早稲田書道会

来場された方々が、足を止めて書の作品をじっくり眺めている姿が印象的であった。また、実演では来場者の名前を書にしたためてあげた物を、来場者が嬉しそうに持って帰る姿はいつもにも増して、微笑ましいものであった。





### 絵手紙教室いち語いち絵の会

日本の四季、風土、年中行事等をモチーフにした絵手紙を紹介。そのかわいらしくほほえましい作品と筆を用いた絵手紙の実演に多くの人が足を止めて見入っていた。

### あうん

あざやかな色彩魚拓作品等を紹介。また、日本での地域交流活動を、小中学校の生徒製作作品で紹介していただいた。実演では、写真撮影、折り紙等で来場者との交流を行った。



### 初美会

多様に染色された和紙を細かくちぎり、製作される切り絵作品を紹介すると共に、旅行日程の都合で、わずかな時間となったが、その製作過程の一端を実演として現地の方々に紹介をしていただいた。

### 株式会社マンガネットワーク

日本の現代文化を代表する「まんが」を、作品製作デモンストレーション、映像、絵コンテ、等様々な形で紹介するとともに、現地の方々と「まんが」を通じた交流を行っていただいた。

来場者が描いた「まんが」作品の紹介なども行われ、会場は常に賑わっていた。





## 墨のF1イラスト展

ヨーロッパで人気のあるモータースポーツ、F1の世界を「和紙」と「墨」を用いて表現する作品、その躍動感、に多くの来場者は感心したように見入っていた。

## コレクターが賞を選ぶ絵画展

来場者が好みの日本の絵画作品を、画集より選び、投票用紙に記入し、投票していた。ここワルシャワでも大変多くの方々が画集を鑑めながら投票用紙に向かっていた。



## 日本折紙協会大阪支部

大きな作品「御殿雛飾り」をはじめ様々な物を折り紙で表現、作品として紹介。日本の技『折り紙』の素晴らしさを作品として紹介するとともに、実演では子どもたちを含めワルシャワの人々に「折り紙」実演教室を開いていただき、「折り紙」を教えていただいた。

## 社団法人 日本和紙絵画芸術協会

日本の伝統的な工芸品である手透き和紙を用いて創作された和紙絵画作品を紹介。和紙と色紙を用いての実演を来場者は興味深く見入ると共に、和紙を通じた交流をしていただいた。







### 日本伝統工芸「能面」 麻生能忍展

ワルシャワの人々に日本伝統工芸「能面」の美を紹介するとともに、「展示会場会期、開場から終了まで全期間を通して、能面の製作課程（のみ使い）を実演していただくなど、来場者の方々と交流していただいた。

### 日本伝統工芸「押絵」 松岡玲子展

日本伝統工芸である「押絵」技法を用いた、雛飾り、羽子板、様々な小物作品を紹介。来場された人々は日本伝統工芸「押絵」の素晴らしさに、顔を近づけて見入ったり、カメラを近づけて写真を撮ったりしていた。



### 日本貿易振興機構（ジェトロ）

パネルを用いて、日本とポーランドとの関係を紹介する共に、クイズ・ゲームで来場者の興味を引きつけていただいた。また、現地女性職員の方が、和装で対応していただいたりしたので、和の温かい雰囲気もご提供いただけた。

### 日本館（NIPPON-KAN）

市内の日本料理レストランである日本館は日本のカジュアルな料理を出展いただき、市民の皆様に味わっていただいた。

### Art Bem

さまざまな種類の陶器をご出展いただき、ポーランドの陶器文化を紹介いただいた。なかには日本の陶器の影響を受けた作品も見受けられた。

### Polskie Centrum Origami

たくさんの種類の折り紙作品をポーランド市民の愛好家グループの皆様がご来場の市民の皆様にご紹介し、実演も楽しんでいただいた。ポーランドの愛好家の皆様が日本の文化を率先してご紹介いただいたことはとても喜ばしい光景であった。

## 表敬訪問

ワルシャワ市庁舎への表敬訪問は、ワルシャワ市副市長から日本側代表として参加した「スタジオ・ぼこ・あ・ぼこ」に対する歓迎の言葉から始まり、終始和やかなムードで行われた。

途中、日本側代表から副市長への質疑応答の時間が設けられ、初めは緊張した面持ちの日本側代表も、話が進むにつれ、時より笑顔が見られた。最後に副市長から日本側代表者一人ひとりにお土産が配られ、表敬表門は無事終了した。

## 野外宣伝

各種イベントに先立って「早稲田ちんどん研究会」と「立命館大学多国籍音楽サークル出前ちんどん」による野外宣伝が行われた。早稲田ちんどん研究会および立命館大学多国籍音楽サークル出前ちんどんのにぎやかなパフォーマンスと音楽、鮮やかな衣装の登場にみるみるうちに人垣ができていた。2グループ同時にパフォーマンスが可能な時間があり、その場で即興の合同演奏を行うなどワルシャワ市民にジャパウィークと彼らの存在を大きくアピールした。





## 学校訪問

### 奈良社会福祉院佐保山太鼓隊

〔日 時〕 10月25日 (木)

〔学校名〕 第34小学校&第41幼稚園

最初の太鼓の演奏では特に幼稚園生は驚きながらも集まった生徒全員でリズムを感じとっていた。途中からの動物劇では子供も一緒に動物の当てっこを楽しんだ。最後のワークショップでは全員で太鼓を代わる代わる叩き、楽しんだ。



### 大正琴絃容会

〔日 時〕 10月25日 (木)

〔学校名〕 第26小学校

「さくら」「東京音頭」などの日本民謡、ポーランド民謡を大正琴にて奏でた。東京音頭演奏中は、踊りも交えた演奏となった。特にポーランド民謡「森へ行きましょう」演奏時には、子供たちは大喜びで体を揺らしながら声を出して歌っていた。その後、大正琴のワークショップ、東京音頭の踊りを体験し、子供たちは真剣に取り組んで交流を楽しんだ。



### チーム鬼灯

〔日 時〕 10月25日 (木)

〔学校名〕 第169小学校 (中学校併設)

生徒の前で「よさこい」を数曲披露し、曲の間には「よさこい」踊りの説明や、日本の祭の説明、折り紙の紹介を含めた日本の文化を紹介した。生徒は一緒に踊ったり、折り紙を楽しんだ。中には折り紙や自分の腕までにメンバーのサインを求めた生徒もいた。



### 和紙ちぎり絵初美会

〔日 時〕 10月26日 (金)

〔学校名〕 第10小学校

あらかじめ日本から用意した下地に最初に和紙ちぎり絵初美会のメンバーがちぎり絵のピースを貼り付けた。それをお手本に生徒たちは初めてのちぎり絵作成をともし楽しそうに作っていた。最後に参加者の日本語でのサインをもらうために生徒たちは長い列をつくった。



## 学校訪問

### 音楽の森へ行きましょう (日本ポーランド関西センター) コールよこすか

【日 時】 10月29日 (月)

【学校名】 第175小学校

低学年、高学年の2回に分けて交流を行った。

「音楽の森へ行きましょう」は「茶摘歌」をコールよこすかのメンバーとともに生徒とパフォーマンスを交えて楽しんだ。「コールよこすか」は手話を交えて「上を向いて歩こう」を合唱、そして「森へ行きましょう」を「コールよこすか」とともに生徒、先生と合唱し、盛り上がった。



### 日本折り紙協会大阪支部 早稲田大学書道会

【日 時】 10月29日 (月)

【学校名】 第103小学校

折り紙と書道、それぞれの交流会を二つの教室に分け、それぞれのワークショップを交互に開催した。折り紙についての生徒のレベルは予想以上に高く、高学年の生徒の中には先生よりも早くテーマの「作品」を完成させて人もいた。

書道については、生徒たちは自分の名前を漢字の当て字で書いてもらうことに非常に興味を持った。終始、笑い声の絶えないなごやかな雰囲気の中で、2つのワークショップを終了した。





## さだ須佐太鼓団

【日 時】10月29日 (月)

【学校名】第94中学校 (第63高校の生徒も来所)

交流会が始まる前の準備段階で、中学校の校長が先頭に立ち、生徒が学校内の案内や荷物運びを手伝ってくれた。当初、太鼓のあまりの迫力にさだ須佐太鼓団を見つめていたが、最後には生徒全員が立ち上って太鼓演奏を楽しみ、アンコール希望の拍手いっぱいとなった。



## 早稲田ちんどん研究会 太鼓衆 翔鼓

【日 時】10月30日 (火)

【学校名】第143小学校

早稲田ちんどん研究会4名が体育館に入った途端、生徒が微笑んだ。ワークショップ時も含め、「森へ行きましよう」など生徒たちが知っている曲を彼らが演奏すると、生徒たちは一緒に歌って喜んだ。

太鼓衆 翔鼓が太鼓演奏し始めた当初は太鼓演奏の音あまりに大きくて生徒の中にはびっくりし、耳をふさぐ人もいた。

その後太鼓演奏に合わせて生徒たちはリズムをとったり、拍手をしたり、体を動かして演奏を聞いていた。ワークショップ時には希望者多数の中から、生徒たちは太鼓衆 翔鼓のメンバーに太鼓の叩き方を教えてもらい、交流会を楽しんだ。



## 武道演武会

〔日時〕 10月30日（火） 17：00～19：45

〔場所〕 トルヴァル中央スポーツセンター

### 日本側

松永光 団長

田邊隆一 在ポーランド日本国大使館特命全権大使

金子隆一 ポーランド日本人会会長

古田親吾 財団常務理事

### ポーランド側

ヴォジミェシュ・パシンスキ 副市長

イエジ・ボミアスキー ポーランド外務省開発協力局長

ゼノン・ダギエルス スポーツ課副課長

ラファウ・ジェシバ マゾフシェ県知事室副室長

今回の特別企画、地元武道家を対象にした「合同稽古会」が、午前におこなわれた。

300名を超える地元武道家が、ポーランド全国規模で集まり、日本からの先生の指導を熱心に学び取ろうとし、内容の充実したすばらしい稽古会だった。

メインの「演武会」は、ほぼ満員の観客入場者に恵まれ、良い雰囲気の中演武会がスタート。盛大な拍手の中、11武道団の入場、両国国歌斉唱につづきセレモニーが行われた。今回、地元ワルシャワ大学と他2大学に、日本武道館から武道に関する書籍の贈呈が行われ、それぞれから感謝のこたばを送られた。

演武会は、テンポよく進行することが出来、途中帰る観客も少なく、良い形で終えることが出来た。大観客の声援に応じて、武道の神髄を手際よく披露することが出来た。

引き続き、観客を対象とした「ワークショップ」も、短い時間だったが、参加者もおおいに楽しんでいた様子が感じられた。







## 音楽交流プログラム

### 都山流尺八八幸会

【日時】 10月27日（土）

【相手先】 ショパン音楽アカデミー（学生）

【場所】 ショパン音楽アカデミー シマノスキー講堂

まず日本側八幸会より琴、詩吟、尺八および琴と尺八による三重奏のパフォーマンスの披露をした。そしてショパン音楽アカデミーの学生よりフルート、ピアノ、ハーブによる演奏の披露があった。その後、日本より楽譜を事前に渡していた曲「みずうみの詩」を合同演奏した。

事前にまるで何回もリハーサルをしたような息のあった合同演奏であった。ハーブとお琴、フルートと尺八の音がとてもよく合っていた。

最後にハーブとお琴のお互い、奏者同士のワークショップ時間も楽しんでいただいた。



### スタジオぽこ・あ・ぽこ

【日時】 10月28日（日）

【相手先】 プロムニ民俗舞踊団

【場所】 ショパン音楽アカデミー

最初はお互いに遠慮しあうようであったが、お互いに踊りを披露しあううちに和やかな雰囲気になってきた。スタジオぽこ・あ・ぽこはタップダンスを、プロムニ民俗舞踊団はポーランドの伝統的な踊り「ポロネーズ」や「クヤウィアック」を紹介し、民謡も唄った。

残った時間で日本側とポーランド側がペアを作り、互いの踊りを楽しく踊った。





## 西日本友好親善訪問

### ワルシャワ大学日本学科訪問交流

〔日時〕 10月27日(土)、29日(月)、31日(水)

〔場所〕 ワルシャワ大学キャンパス及び新図書館

西日本各地から有志の参加団体で構成されている西日本友好親善訪問団は、11月27日と29日そして31日の3回、ワルシャワ大学を訪問し、東洋学研究所日本学科の教授、講師及び学生と親善交流を行った。ワルシャワ大学は1816年に創立された国立の文化系の総合大学で、現在18の学部約5,800人の学生が在籍、1919年に設立された日本学科(現在の正式名称は日本・韓国学科)は、東欧で最も古い日本文化研究、日本語教育機関として、現在は常時約200名の学生が学んでいる。2002年には天皇・皇后両陛下が訪問された。

今回は初めに学生達の案内でワルシャワ大学のキャンパスを見学し、その後は斬新な建築の新図書館へ移動、講義室で学生の他、教授、講師陣にも参加をいただき交流会を行った。日本学科の岡崎教授によるワルシャワ大学の概要、歴史の案内にはじまった交流会は、続いて学生代表のスピーチにうつり、4名の代表者が何故日本に興味を持ったのか、また将来的にどう日本とかかわっていききたいのかという点を切り口にスピーチを展開、訪問者一同興味深く聞き入った。最高学府であるワルシャワ大学の学生のスピーチは非常に教養度の高い内容で、参加者一同は、日本人の中に薄れつつある日本文化の側面を彼らの中に見い出し、驚きを隠せなかった。スピーチの後は質問タイムとなり、アニメや漫画といったサブカルチャーなどの話題も出て、あっという間の1時間半が過ぎ去った。最後は参加各団体の代表が学生におみやげを、また訪問団として大学側に日本古典名作選のビデオとVTRを手渡し、交流会は終了した。しかし今回は初の試みとして引き続きランチパーティーを実施。講義室に隣接するコリダーで教授、講師、学生とざっくばらんな意見交換をしながらのピュッフェランチを楽しんだ。



### ワルシャワナイト

〔日時〕 10月27日(土)、29日(月)、31日(水)

〔場所〕 農業中央図書館ホール

今回ご参加いただいた西日本友好親善訪問団の参加者に感謝の意を表すため、かつてキューリー夫人が学んだとされる農業中央図書館のホールで夕食会「ワルシャワナイト」を開催。27日は金井耿氏/株式会社日本旅行代表取締役社長、29日は土師総一氏/株式会社ジェイアール西日本伊勢丹代表取締役専務、31日は南隆明氏/株式会社京都駅観光デパート代表取締役社長の挨拶に始まり、続いて乾杯のご挨拶とご発声で27日は仲井徹氏/ジェイアール西日本商事株式会社代表取締役社長、29日は倉橋 源太郎氏/西日本旅客鉄道労働組合委員長、31日は池田靖忠氏/大阪ターミナルビル株式会社代表取締役社長が行った。参加者の皆様にはポーランドの郷土料理をお楽しみいただく一方、食事の合間にはショパンミニコンサートとして「ワルツマイナー」と「幻想ポロネーズ」のピアノ演奏とフレデリック・ショパン音楽学校の少年少女による合唱も披露され、特にポーランド民謡「森へ行きましょう」と最後の「ふるさと」の合唱は、異郷の地で聞く日本語の歌声が聴衆一同に大きな感動を与えた。そして夕食会は盛況のうちに、来年の開催地フランス、ストラスブールの案内とともに幕を閉じた。





# JAPAN WEEK の風景









10 WARSZAWA

WKRÓTCE POZNASZ JAPOŃSKIE TAJEMNICE Wskocz w kimono, wypij herbatę

Nadchodzi Japoński Tydzień. Imprezy są tak wielkie, że w Warszawie nie przeobraziłyby się w imprezę...

Rehabili na inaugurację pod PKiN Poznajmy się z Japonią



15. listopada, japońskich artystów gości w Warszawie z okazji 33. rocznicy...

Tydzień o Kraju Kwitnącej Wiśni Chopin wspólnie z Japończykami

Przywitamy uroczem w bębny przywitali dziennikarzy organizatorów festiwalu Japan Week...

26 października - 1 listopada 2007

W MIEŚCIE | 31

WPRZEDPKiN Festiwal kultury japońskiej

1500 Japończyków w Warszawie

URSZULA JABŁOŃSKA

W polski odczytanie kadłub Japon Week. Dla Warszawy zjadł...

w litym kraju. W tym roku, z okazji 50. rocznicy...



wystawę rysunków wykonanych tradycyjną techniką...

Szczegółowy program i rezerwacje...

Dziś koniec święta Japonii w stolicy

Wtorek jest ostatnim dniem 22. Międzynarodowego Tygodnia Kultury Japońskiej...

GENERAL

London: Brent crude hit an all-time high and U.S. oil surged more than 1 USD towards 89 USD...

Washington: President George W. Bush labeled the Castro government a "disgraced and dying order"...

Brussels: A keenly awaited European Union report will criticise EU candidate Turkey in November on human rights...

Jerusalem: Israeli and Palestinian leaders will meet in another attempt to bridge gaps in talks over a joint document...

Tripoli: Disarray in both government and rebel ranks makes quick progress unlikely in Darfur peace talks...

Prague: The Czech Republic will not allow Russian soldiers to be stationed at a planned U.S. radar base...

Mingora, Pakistan: A suspected roadside bomb attack killed 18 soldiers and wounded 25 in a northwest Pakistan region...

movement has taken root and the military has boosted its presence, officials said.

Strasbourg, France: The European Parliament awarded its annual Sakharov Prize for Freedom of Thought to Sudanese human rights lawyer Salih Mahmoud Osman.

Ankara: Turkish President Abdullah Gul said Turkey was determined to take the necessary steps to end the threat from Kurdish guerrillas based in northern Iraq...

Diyarbakir, Turkey: Turkish forces deploying tanks and artillery repulsed an attack by up to 40 Kurdish militants on a military post near the Iraqi border...

WEATHER ON WEEKEND

Warsaw, Oct. 26: Overcast with some sunny spells and occasional showers. Maximum daytime temperature from ten degrees Centigrade in the east to 14 degrees in the south...

UPCOMING EVENTS

Friday, October 26: Polish Peasant Party (PSL) executive committee holds a meeting

Briefing of National Security Office (BBN) head after a meeting with Russian journalists (12:15 hrs)

Spouse of the Polish President Ms Maria Kaczynska meets HRH Princess Soamsawali of Thailand now on a 5-day visit to Poland (12:30 hrs, Presidential Palace)

Environment Minister Jan Szyszko holds a press conference on preparations for the 13th Session of the Conference of the Parties (COP 13) to the United Nations Framework Convention on Climate Change (UNFCCC) (11:00 hrs, 52/54 Wawelska St.)

Saturday, October 26: Week of Japanese culture starts (until Oct. 30)

Wydarzenie już w piątek rozpoczyna się w Warszawie Tydzień Japonii

Kultura jedzona pałeczkami

Organizowane przez International Friendship Foundation przedsięwzięcie doskonale wpisuje się w panujący u nas trend - wciąż zwiększające się zainteresowanie kulturą Kraju Kwitnącej Wiśni.

o nie chodzi bynajmniej o liczne sushi-bary, choć szeroka gama subtelnych smaków i wizualna atrakcyjność japońskich potraw bez problemu mogą trafić przez żołądek do serca.

Ręką na pulsie trzymamy domy kultury i muzea - na Pradze możemy zobaczyć na przykład zdjęcia z Kioto, w Wilanowie plakaty mistrzów Nipponu. Na uginające się już od orientalnych filmów grozy półkolumny półki trafiają wreszcie pakiety ze Studia Ghibli - imperium, którego najświetniejszym punktem jest czarno-biały współczesnej animacji Hayao Miyazaki. Niedawny przegląd jego dzieł okazał się imponującym sukcesem frekwencyjnym i kulturalnym kryzysem rozpiętością widokową widza.

Mimo że na płycie Kasi Nosowskiej pojawiły się dziewczyny i Papaya Paranoja, a hip-hopowy doskonale widać, że DJ Krush czy DJ Honda to światowa elita, ze znajomością japońskiej muzyki jest gorzej. Nadbrzoła to literatura. Obok prowadzonego z pasją wydawnictwa



Waneko, działa też Hanami. Modnie jest znać książki Haruki Murakamiego. O wyspach chętnie i różnorodnie piszą Polacy - Joanna Bator pozwała zrozumieć życie na nich, Marcin Bruczkowski umożliwia odczucie. Do festiwalu jesteśmy świetnie przygotowani.

TYDZIEŃ JAPOŃSKI - CO ROBIĆ

- 1. Podziwiali artystów ulicznych - Dobra okazja ku temu jest już w piątek 26 października podczas smony otwartej imprezy od godz. 15 pod PKiN... 2. Poznać muzykę tradycyjną - Najlepiej o 19.30 na VI piętrze PKiN między 26 a 30 października... 3. Skosztować kuchni - Kouryouku Kai zaprasza na zawieszony herbaciany... 4. Zrozumieć mangę - W dniach 29-30 października w Sali Radniewa PKiN odbędzie się pokaz jej bohaterów... 5. Zobaczyć sztuki walki - We wtorek 26 października o godz. 17, na Arkadzie zasklepie judo, karate, sumo, aikido i tchue kienreitei style.





## 編集後記

今回のジャパンウィーク開催にあたり、ワルシャワ市側関係者、ポーランド共和国マゾフシェ県の関係者並びにポーランド側実行委員会の日本・ポーランド友好のための熱心な受入の協力を感謝申し上げます。またジャパンウィーク運営を支えてくれた、ポーランドにおいては在ポーランド日本国大使館、ポーランド日本人会、ポーランド日本商工会、ワルシャワ日本人学校、ワルシャワ大学の皆様方、そして日本においては在日ポーランド大使館、ポーランド政府観光局の皆様方に厚く御礼申し上げます。わけても昼夜を問わず共にこの運営に携わっていただいた現地コーディネーターそしてジャパンウィークの主旨にご賛同いただき、お忙しい中にも関わらずボランティアを買って出てくれた皆様方、そして有形無形でご支援いただいた関係者の方々のご協力なくして無事終了する事は出来ませんでした。ここに深く感謝申し上げます。

また世界情勢が依然混沌とする中で、日本全国各地よりジャパンウィークの趣旨にご賛同いただき、ご参加いただき日本・ポーランドでの草の根レベルの国際交流にご活躍された皆様方に厚く御礼申し上げます。

真摯な相互理解・異文化理解の輪を広げて、世界が心一つになれることを願って止みません。ジャパンウィークを通じて、世界への恒久平和に少しでも前進できれば幸いです。

皆様方のご支援・ご協力を引き続きお願い申し上げる次第です。





**助 成**

 独立行政法人国際交流基金

財団法人 日商岩井国際交流財団

助 成

 独立行政法人国際交流基金

財団法人 日商岩井国際交流財団



財団法人 国際親善協会

〒113-0034 東京都文京区湯島1-9-4 鳴原ビル3階  
Tel. 03(5802)0351 Fax. 03(5802)0353

International Friendship Foundation  
Shigihara Bldg. 1-9-4, Yushima, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0034 Japan  
Tel. 03(5802)0351 Fax. 03(5802)0353 e-mail: info@iffjapan.or.jp